

主圖版① 「甘泉宮」字瓦當

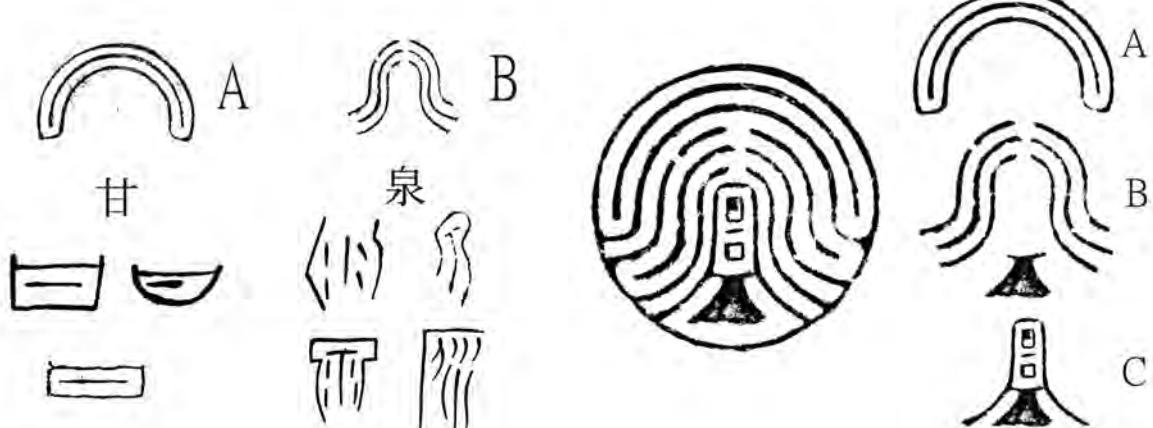


図版② 『秦漢画磚集録』所載の「甘泉宮」原瓦の写真



# 「秦漢時代の瓦当と磚文」

図版④ 「甘」「泉」字の篆書

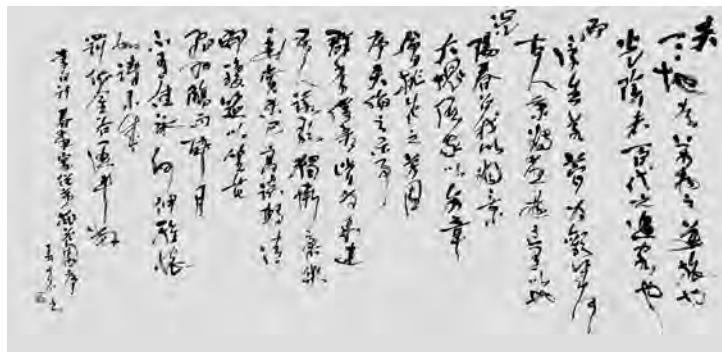


右の瓦の拓本を見て、いつの頃からか、ノルウェーの画家、エドヴァルド・ムンクの有名な「叫び」の絵を連想するようになりました。この瓦は、類例が一件のみ知られるだけです。戦前に日本で刊行された『秦漢画磚集録』に180余件の瓦と共に収録されています（図版②）。これまでに見た拓本は、右に示した家蔵の一枚のみです。この拓本は、『秦漢画磚集録』の瓦を拓したものであり、下の題記に文字ではなく特異な紋様であると記しています。先の原瓦の写真を収めた本の解説では、中央の下を、「宮」と解釈し、「宮」字の瓦当と表記しています。『秦漢瓦当文』を著した時には、先人の意見に従い、「宮」字瓦當としました。その後、西安の周曉陸氏が、この瓦の新しい解説を発表されました。優れた見解なので図解ながら紹介します。瓦当面の円周内の線条を、図版③に示したようにA、B、Cの三部分に分け、Aを「甘」、Bを「泉」、Cを「宮」と解説しました。「甘泉宮」は、秦漢時代の都・咸陽の甘泉山付近に築かれた宮殿の名です。図版④には、「甘」「泉」の甲骨文や瓦当、三体石經などの篆書の例を解説の根拠としています。大変に優れた新しい見解であると考えます。

伊藤滋（書斎名・木鷄室）

# 書道芸術院

## 平成の群像 (2017)



「李白詩・春夜宴從弟桃花園序」(91×182cm)



# 高 田 春 來

## 抒情性を…

恩師、恩地春洋先生が亡くなられて6月で1年が経ちました。

川崎梅村（白雲）先生門下の八雲香蘭先生の教室へ通い始めてまもなく、先生が体調をくずされ、恩地先生の元へ導かれました。

臨書の講座で学ばせていただくようになつたのが始まりでした。先生は常に「息の仕方」「呼吸」について説かされました。臨書を通じて「先人の息づかいままで聞こえる」と言わされたのに驚いた覚えがあります。

「書は線である。形はあとからついて来る」又有る時は自分に「無いものは書くな」とも。筆を持つ度、師の教えが蘇ります。

弟子一人ひとりの個性を重んじ、闘病中におかれても個々の行く末を察じて進むべき方向性を示されました。

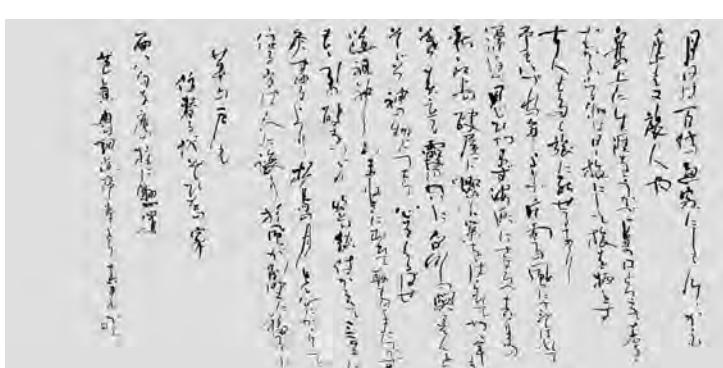
最後に頂戴した5月16日付の葉書に「抒情性に磨きを」とありました。この課題は今後の大きな宿題です。

写真は2014年夏 春洋会4人展出品作品。

「夫れ 天地は万物の逆旅なり 光陰は百代の過客なり」で始まる李白詩「春夜宴從弟桃花園序」 「月日は百代の過客にして行きかふ年も又旅人も也」で始まる松尾芭蕉「奥の細道序章」2点並べて展示。文藝春秋画廊と共に想い出深い展覧会です。

恩地先生もまた、「旅の人」がありました。今、どこを旅しておいでなのでしょう。

春洋会は小林琴水先生を会長に新たなスタートをしました。心を豊かにと始めた書道ですが、書を通じて本当に多くの出逢いをさせていただきました。心の支えとなり深みのある人生を送れる事に感謝しています。



「松尾芭蕉・奥の細道より」(91×182cm)

# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

(公財)書道芸術院理事会・評議員会及び第71回展運営委員会開催

5月13日開催の理事会後、定期評議員会が5月30日に開催され、平成28年度事業報告及び決算報告を承認、任期満了に伴う評議員の改選を行った詳細は別記院報にてご確認いただきたい。

\*評議員退任者 大井美津江、大辻多希子、熊谷宗苑、清水翠径、畠中弄石、山田梓江（全員参事にご就任）  
\*新評議員 飯沼惠鳳、大平邑峰、北村白琉、木村東舟、小林古径、山崎掃雪（その他は留任、任期は平成29年より4年間）  
\*前事務局長 前田龍雲参事に就任

## 第71回書道芸術院展運営委員会

6月17日 院事務所にて開催。第71回展の特別賞選考委員、一般・無鑑査当番審査員、審査事務委員の決定。出品要項の決定などを行った。

同日各部部長による実行委員会が開催され、各部委員の決定、運営日程の調整などを検討した。（詳細は別記）

(公社)全日本書道連盟総会開催  
下谷洋子氏監事に就任

6月12日、上野精養軒にて定例総会が開催され、平成28年度事業・決算報

告、平成29年度事業計画・予算案の承認、任期満了に伴う役員改選などが行われた。総会後講演会・祝賀会開催。

役員改選

理事長 石飛博光、今村桂山（再）

田中節山、中村雲龍（新）

高木聖雨、辻元大雲（再）

真

\*小林琴水 評議員に就任

\*今年度毎日書道顕彰

芸術部門

大川寿美子（かな）

柴山抱海（漢字）

啓蒙部門

西 墨濤（漢字）

柴山抱海（大字書）

新監事

下谷洋子、宮負丁香

事務局長

辻元大雲（再）

兼務

\*講演会「書写書道のこれまでとこれから―新しい学習指導要領の方向性」

講師 横浜国立大学 青山浩之氏

\*夏期書道大学

本年も例年通り左記日程、講座内容

により開催される。是非ご受講を。

期日 8月4日（金）～6日（日）

会場 池袋サンシャインシティ

講座・講師

4日 行書（堀 吉光）

5日 草書（風岡五城）

6日 楷書（柳 碧蘚）

篆隸（大橋洋之）

申込 全日本書道連盟事務局

FAX 03-5294-1372

会費 会員（3日間10000円、1日5000円）

一般（同15000円、7000円）

\*

日時 8月26日（土）、27日（日）

\*

会場 長野県諏訪市 上諏訪温泉

\*

講師 漢字（川島舟鏡）

\*

かな（石井明子）

6月16日開催され事業報告・決算承認、任期満了に伴う評議員の改選など

\*大野祥雲 総務退任、参事に就任

\*小竹石雲 評議員退任 総務に就任

\*今年度毎日書道顕彰

芸術部門

大川寿美子（かな）

柴山抱海（漢字）

啓蒙部門

西 墨濤（漢字）

柴山抱海（大字書）

新監事

下谷洋子、宮負丁香

事務局長

辻元大雲（再）

兼務

\*講演会「書写書道のこれまでとこれ

から―新しい学習指導要領の方向性」

講師 横浜国立大学 青山浩之氏

\*夏期書道大学

本年も例年通り左記日程、講座内容

により開催される。是非ご受講を。

期日 8月4日（金）～6日（日）

会場 池袋サンシャインシティ

講座・講師

4日 行書（堀 吉光）

5日 草書（風岡五城）

6日 楷書（柳 碧蘚）

篆隸（大橋洋之）

申込 全日本書道連盟事務局

FAX 03-5294-1372

会費 会員（3日間10000円、1日5000円）

\*

日時 8月26日（土）、27日（日）

\*

会場 長野県諏訪市 上諏訪温泉

\*

講師 漢字（川島舟鏡）

\*

かな（石井明子）

\*

現詩（田村鄭雲）

篆刻（後藤大峰）

前衛（太田蓮紅）

原拓（種谷萬城）

書写（牧 泰濤）

院史（辻元大雲）

\*参加申込 別紙にて長野支局まで

参加費など詳細は別紙要項参照

\*参考資料

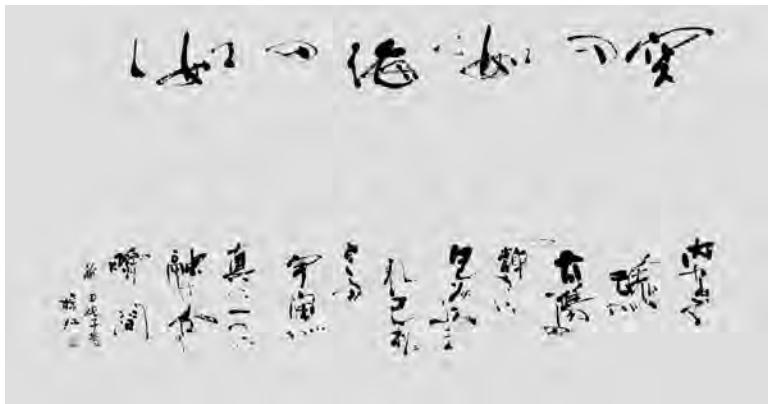
参考書

## 現代詩文書 (四)

山田梓江

## 篆刻・刻字 (四)

清水翠径



第69回書道芸術院展 「空の如く海の如くより」

山田梓江書

今回掲載しました作品は、最近手にした本の中で一番感銘した『空の如く海の如く』(新田純子著) 空海の生涯を描いた小説の一節を引用し、書きせていただいたものです。自分の魂と宇宙が融合合い、「無」になることは、修行を積み重ねた空海のような人でない限り不可能ですが、僅かでも近づきたいと願いながら筆を動かしました。

これは何かのご縁を頂いていると思うようになります。そのような環境もあって、空海の時代背景や人物像を知りたいと思ふ、書物を読んでいくと臨書を楽しめるようになり、古典を学ぶ意義を確信しました。

書道教室に通い始めた頃、空海の書をしっかりと勉強しなさいと言われて、風信帖や灌頂記などを一生懸命臨書していましたが、空海については漠然とした知識しかなく、追求するという事もありませんでした。しかし、嫁ぎ先

の庭にお大師様の札所があり、春と秋の弘法大師の命日には、ささげ(黒い豆)のご飯を炊いて近所の人を接待したり、子供達にお菓子を配ったりするのを手伝っているうちに、これは何かのご縁を頂いていると思うようになります。そのような環境もあって、空海の時代背景や人物像を知りたいと思ふ、書物を読んでいくと臨書を楽しめるようになり、古典を学ぶ意義を確信しました。

## 21世紀の書 —私の主張—



「年輪」 白文作品

清水翠径刻

彫りの種類には、大きく分類して2種類凹刻りと、凸刻りの2つに分けることができます。凹刻りをへ白文▽凸刻りをへ朱文▽と表現もします。白文は書稿の文字部分の実線を彫り込む方法。実線のわずか

内側に、のみ裏を向けて、縦にステノミを入れる、小さな変化は小さなものでステノミを入れる。ステノミが完了後は、実線に、のみ裏を外に向けてタテノミを入れる。次に文字部分となる面は、のみ裏を上に向け斜めに刻りとする。その後文字溝を除いた下地を、サンドペーパーで整えバックに色を塗る。従来は朱墨と墨の混合液を使用したが、近年はアクリル塗料で風雅を表現する刻字作家が多くなった。次に文字の外に顔料がはみ出ないように気をつけ、胡粉等創意工夫をもった色彩で文字表現をする。

朱文については、実線のやや外側にステノミを入れ、ノミの裏を実線に向け縦に打ち込む。次に本ノミを助けるためノミ裏を上にしてV字形にさらう。ステノミ完成後は、ノミの裏を実線に向け木目に注意して刻り進む。本ノミの後、外側から下地をさらう。大胆にさらう。着色は白文の木目、角度、深さに注意して大胆にさらう。着色は白文の木部と同様であるが相手が自然木であるため仕上りの色合いに気を使う。

# 平成29年度 新審査会員作品

II 早川蕙風（漢）・佐藤紅茜（前）・西巻サト子（か）・小川香煙（現）

早川蕙風  
(千葉)

「漱石東海道興津紀行」



飯城之西六十餘里山勝然後地而起潮流直逼山麓  
山海之間平地幾五六十步其亭十數座其間與豪戶  
豪家錯落相間呼曰興津所謂東海五十三驛之一也  
山麓有古刹佛閣經樓高出于青蘿之上望之隱妙  
如畫面興津之山勢衝西北而走海灣之南曲三  
里而達清水港港盡而海而東折定出洋中二里  
許古松無數遠掛天邊坐石上凝望興津地行昌風書題



西巻サト子  
(東京)

「ほほゑみて…」（会津八一）

この度は、審査会員にご推

挙頂き誠にありがとうございました。これも下谷洋子先生のやさしく熱心に、時には厳しくご指導下さいたお蔭と心から深く感謝申し上げます。また、書泉会、書友の皆様には感謝の念一杯です。今後は古典臨書にも力を入れて精進して参ります。

（サト子）



小川香煙  
(宮城)

「野の果て」

歩き続けてきた野、突如出現した海――という光景が鮮やかに浮かんできた詩です。そのイメージを小さくならず表現したい、という思いで書きました。

表現することは本当に難しいことですが、線を鍛え、御指導を受けながら、向き合っていきたいと思います。

（香煙）



佐藤紅茜  
(宮城)

「彩ふ季節」



空も山も田畠も白一色の冬から、やわらかな春の陽射しを受け草花も木々も目覚める春。街を歩く人々もランドセルの子供達も自然の恵みを体一杯に受け、心は彩り豊かな生命の息吹に満たされる。宿墨の醸し出すやわらかさの中に凍とした意思を表現したいとの思いで筆を握りました。

（紅茜）



小川香煙  
(宮城)

「野の果て」

現した海――という光景が鮮やかに浮かんできた詩です。そのイメージを小さくならず表現したい、という思いで書きました。

表現することは本当に難しいのですが、線を鍛え、御指導を受けながら、向き合つていきたいと思います。

## 書道芸術院創立70周年記念

### 役員作品巡回展

#### 併催 山陽支局展

会期 平成29年4月7日(金)～10日(月)

会場 防府市地域交流センター  
「アスピラート」

実行委員長（山陽支局長）

山田 梓江

岡山県・広島県・山口県の三県の無鑑査以上の本展出品者全員と一般公募は、出品自由として希望者を募ったところ148点の出品があり、所狭しと小さな会場を埋め尽くしました。陳列は、藤井龍仙事務局長の緻密な配置図により、東洋額装様と会員の協力で時間内に終了することができました。

7日は午後12時のオープニングになりましたが、辻元大雲理事長はじめ役員の先生方10名が遠方よりご来場いただき盛大に開幕いたしました。

先ず辻元理事長より書道芸術院の成り立ちと特徴について話され、梓江には

まらず個性的な作品を書き、たえず前向きであるようにと述べられました。

作品解説は、巡回展出品者がそれぞれ

をとり、担当理事の後藤大峰常務理事・浜田堂光理事の解説ほか8名の先生方

辻元理事長のユーモアあふれる進行の中、参加者は真剣に耳を傾け有意義な研究会でした。大分の牧泰満先生は、

「昨日80歳を迎えた」と元気溌剌にご挨拶され拍手喝采を受けられ早くも祝いムードに会場が湧きました。その後、祝賀会が始まるまでの時間は、山陽支局の出品者は、先生方に自分の作品を批評してもらひながらの鑑賞会となりました。

祝賀会は、場所を変えて展覧会場に隣接しているベルクラシックで、藤井龍仙さんの司会により開宴されました。琴演奏のセレモニーがあり、結婚式さながらに2階からスターの如く役員登場。大拍手でお迎えし一変して和やかな雰囲気になりました。余興も防府伝統の「お笑講」で大笑いし、最後は、

防府踊りで会場全員が輪になつて汗を

書道芸術院創立七十周年記念  
役員作品巡回展 併催 山陽支局展



会場入口



オープニングテープカット



辻元大雲理事長により(公財)書道芸術院の歴史を語られる



辻元大雲理事長により開幕にあたりご来場者へのあいさつ



巡回展・山陽支局展 会場風景



後藤大峰常務理事の解説



浜田堂光理事作品解説



祝賀会での余興 防府伝統「お笑い講」  
後藤先生・牧先生・浜田先生による



祝賀会 辻元大雲理事長の主催者あいさつ

## 書道芸術院創立70周年記念

### 役員作品巡回展

#### 併催 第21回九州支局展

会期 平成29年4月27日(木)～30日(日)

会場 大分県立美術館 1階  
(A・B室)

実行委員長（九州支局長）

牧 泰 潤

本院の創立70周年にふさわしい会場を確保でき、今や世界的になつた建築家坂茂氏設計の大分県立美術館1階のA室に役員作51点。B室に支局員作76点を展示した。特にA室では1点2m間隔で左右作品の残像が競合しない、ゆつたりとした贅沢な展示ができたことが一番の華。

4月26日㈬13時搬入開始。院準備のDVD放映装置の設営。天井高(5m)と作品群との空間を埋める横幕掲示、キャプション貼付、足場機材収納、呼び込み看板作成完了18時30分。いつも乍ら西本皆文堂スタッフの精力的で要領のよい作業に感心感謝である。

●初日の4月27日15時～16時30分。A室の一角で、児玉事務局長司会で作品研究会を開催。出品者、地元書道人約

下見を兼ねて出向いた山陽支局の時と同様辻元理事長の名進行で顧問作品から順次解説開始。例によって本人作の前では本人に製作意図や書道観を語らせるのである。小竹常務理事は、選文選材についてご自身のお考えを話された。坂本理事は白黒のバランスやちらしへについて、高田評議員、牧参事作も俎上に上がり自己弁解してA室一巡終了。

つづいてB室へ。支局展出品出席者各自の前で製作意図発表後、理事長の指導を受けた。大作発表者は、田中岳舟「燃」3×4m。牧泰潤「保長寿楽人生」5×3m。高田幽玄「肥の国大阿蘇の山」3×4m。児玉範光「淳化閣帖臨」1.6m×4m×2。木部觀月「つばみ」1.2m×4mの5名。

●懇親会（18時30分～20時30分）会場は美術館との連絡歩道橋を渡つてオアシスタワー・ホテル21階エトワール。牧支局長、始めの言葉。辻元理事

60名を前に、辻元大雲理事長が弁舌爽やかに挨拶。伝統と革新を標榜する院史と13総支局を有し活動する院の姿勢海外展を日本で最初に実施した院の先長が今回の担当理事を紹介。すっかり顔馴染みになつた小竹石雲常務理事。

前事務局長をお迎えし、お陰様で楽しく重厚な研究会ができました。祝賀と下見を兼ねて出向いた山陽支局の時と同様辻元理事長の名進行で顧問作品から順次解説開始。例によって本人作の前では本人に製作意図や書道観を語らせるのである。小竹常務理事は、選文選材についてご自身のお考えを話された。坂本理事は白黒のバランスやちらしへについて、高田評議員、牧参事作も俎上に上がり自己弁解してA室一巡終了。

つづいてB室へ。支局展出品出席者各自の前で製作意図発表後、理事長の指導を受けた。大作発表者は、田中岳舟「燃」3×4m。牧泰潤「保長寿楽人生」5×3m。高田幽玄「肥の国大阿蘇の山」3×4m。児玉範光「淳化閣帖臨」1.6m×4m×2。木部觀月「つばみ」1.2m×4mの5名。

●懇親会（18時30分～20時30分）会場は美術館との連絡歩道橋を渡つてオアシスタワー・ホテル21階エトワール。牧支局長、始めの言葉。辻元理事

長の主催者挨拶。続いて戸口勝山県芸術文化振興会議理事長、安東公綱大分

合同新聞文化科学部長より祝辞をいただく。毎日書道展特別昇格の高田幽玄審査会員、児玉範光会員に花束贈呈に對して理事長が祝意と激励の辞。祝舞の後、安達一成毎日新聞大分市局長の乾杯発声。西本皆文堂社長はじめ65名で祝賀歓談を深めた。2次会は歌って歌つて、例によりラーメン締め。

「大分にはない前衛書作品を紹介してくださる書道芸術院の活動に敬意を抱きます」との戸口理事長のほめごとに、実行のやり甲斐をありがたく覚えます。今や、全国区に成長し続ける大分高等学校書道部の生徒42名が最後にご来場下さった。一同整列し部長のご挨拶を頂戴しつつ、生徒等のキャラ輝く眼光に、書を通じて人としての成長を中心析つた。若いといいいなあと老人なりに「老木不忘花」の生き様を見せなければと強く思った。

最後に、同高3年神志那詩音さんの感想を紹介します。「いつも私たち高校生が書いているものとは違い、巡回展では大きな作品や空間をきれいに使つた作品が多くいい勉強ができました。最後のしめの印もいろいろこだわつていてこれも勉強になりました。これから作品づくりに、学友達と話題にしながら頑張りたいと意欲ができました。有難うございました。」



役員巡回展作品解説をする辻元理事長と参加者



左から指導において下さった前田・坂本・小竹・辻元の4先生と牧・児玉の実行委員



辻元理事長と坂本理事の解説  
後ろは坂本先生の御作品



解説する小竹石雲常務理事



辻元理事長の説明を聞く参加者。  
正面の作品は児玉鶴光氏の大作



田中岳舟氏と牧泰濤支局長の作品を背に  
(左から) 坂本・辻元・小竹の役員の先生方



祝辞を下さった  
安東大分合同新聞文化科学部長



「前衛作品を開陳して下さって  
ありがとうございます」と戸口勝山氏



主催者挨拶する辻元大雲理事長



乾杯ご発声の  
安達一成毎日新聞大分支局長



祝舞  
初世流家元・初世宝尚さん



昇格祝いの花束を受けた高田審査会員と児玉会員。  
祝辞を述べる辻元理事長

美人董氏墓誌銘  
(隋·597年) ①

特別研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記の法帖より何文字臨書してもよい。  
II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 当該古典の左記掲載部分以外不可。

当該古典の左記掲載部分以外も可。

〔解説〕「美人」という宮廷内の侍女の職を務めた董氏の墓誌銘である。董氏は容姿に優れ、隋の文帝の第4子である蜀王・楊秀（？—617）の寵愛を受けてたが、開皇17年（597）、19歳の若さで病没した。蜀王は自ら哀悼の文を作つて葬った。この原石は、清時代、嘉慶・道光年間（1796—1850）に陝西省の興平

県から出土したが、太平天国の乱（1853）でその所在が不明となつた。誌面の大字は縦横とも52センチで、21行、行23字からなる。鋭い線質ながらも、字形の整つた穏やかな書風が特徴であり、隋代墓誌銘中の傑作の一つである。

羨人姓董汴州恤宜縣人

也祖佛子齊涼州刺史敦

仁博洽標譽鄉間父後淮

佣僅莫雄聲馳河澆羨人

體質閑華天情婉戀昧

美人姓董。汴州、恤宜縣人也。祖佛子。齊、涼州刺史。敦仁博洽。標譽鄉閭。父後進。椒儼英雄。聲馳河兌。美人。體質閨華。天情殊姪。恭以

(掲載図版原寸)

\*落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

古筆鑑賞

高野切第三種  
(伝紀貫之)

①

160

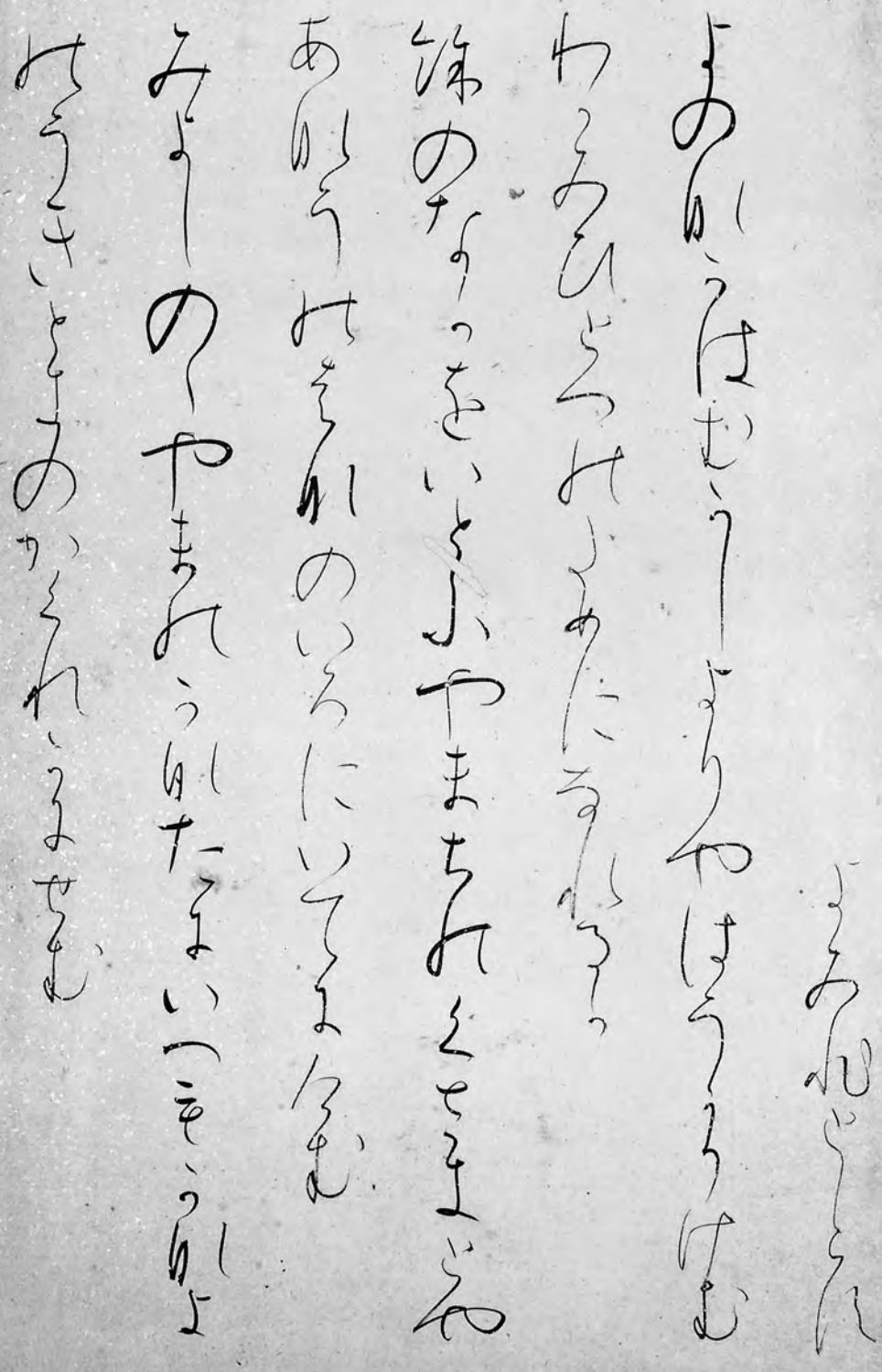
〈よみ〉

よみびとしらず  
のなかはむかしよりやはうかりけむ  
わがみひとつのためになれるか  
よのなかをいとふやまちのくさきとや  
あなのはなのはいろいろにいでにけむ  
みよしのゝやまのかくれがにせむ  
のうきときのかぐれがにせむ

〔解説〕高野切は、「古今和歌集」の現存最古の写本。巻第九の巻頭の断簡が高野山に伝来したことから、この一連の断簡を「高野切」と呼んでいる。すべてが紀貫之(?)の書と伝えられてきたが、11世紀半ばに3人の能書による分担揮毫(寄合書)したものである。その書風の違いから、第一種・第二種・第三種に分類される。この高野切第三種は、洗練された張りのある筆線を駆使しながら、明るく流動美あふれた書風が特徴である。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみ可)

(編集部)



(徳川ミュージアム蔵)

※掲載図版は85%縮小

かな研究部  
臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)  
別紙を裁断して貼付也可。半價紙は半紙サイズに切って使用のこと。  
上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

特別研究部  
臨書課題

(毎日展公募サイズ以内・縦横自由)  
上記の掲載以外も可。

習い方解説 (四)

稻垣小燕

明星有爛  
(鄭風・女日雞鳴)

子興視夜 子興きて夜を視よ

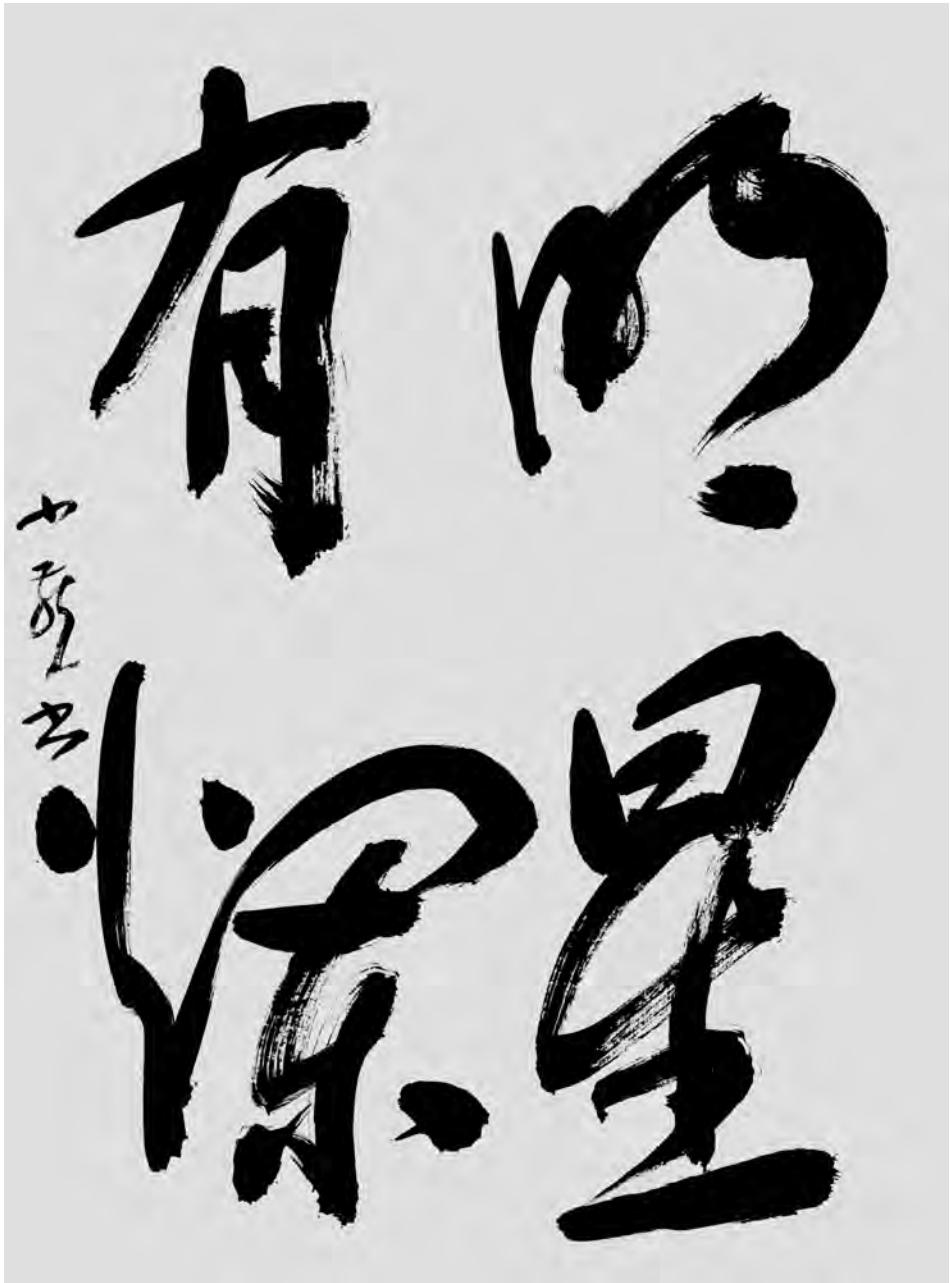
明星有爛 明星爛たる有り

君よ起きて夜をごらん、  
明星がきらきら

書作にあたっては言葉・文字選  
びから始まり、その意味を理解し  
表現方法を考えるという過程をふ  
まえている。今回の言葉からは、  
まだ明けやらぬ夜明けの空に明け  
の明星が光り輝いている様が浮か  
んできます。この様な光景を思い  
描きながらその情景が書で伝わる  
ように作品にしていく姿勢が大事  
であると思います。

明星有爛 よみ(明星爛たる有り)

書体=自由



習い方解説 (四)

大野祥雲

(韓非子)  
徳極萬世を極む

正しい徳が永久に続く。

「徳」「イ」の2画目を伸びやかに払う。旁は横に広がる造

型とし、偏との均衡を保つ。

この文字も横に広がる字形。

古典に倣い最終画を長くし、上部がのっかる形になった。

「萬」筆先でグイグイと深く食い込むように書写体で書く。

力強い横画が多く、内部に白がないと真っ黒くなる。

「世」横画、縦画の構成で、しか

も画数が少ない。他の3字との調和を考え工夫が大切。

語句からして大らかさを第一に、伸びやかに運筆しました。



書体＝楷書

徳極萬世 よみ (徳萬世を極む)

大辻 多希子

わが宿のそともに立てる橋の葉の  
茂みにすすむ夏は来にけり  
(恵慶法師)

かやまち

かやまち

まの  
まくわ

まくわ

□

作品に立体感を表現するため、墨量の潤渴について述べたいと思

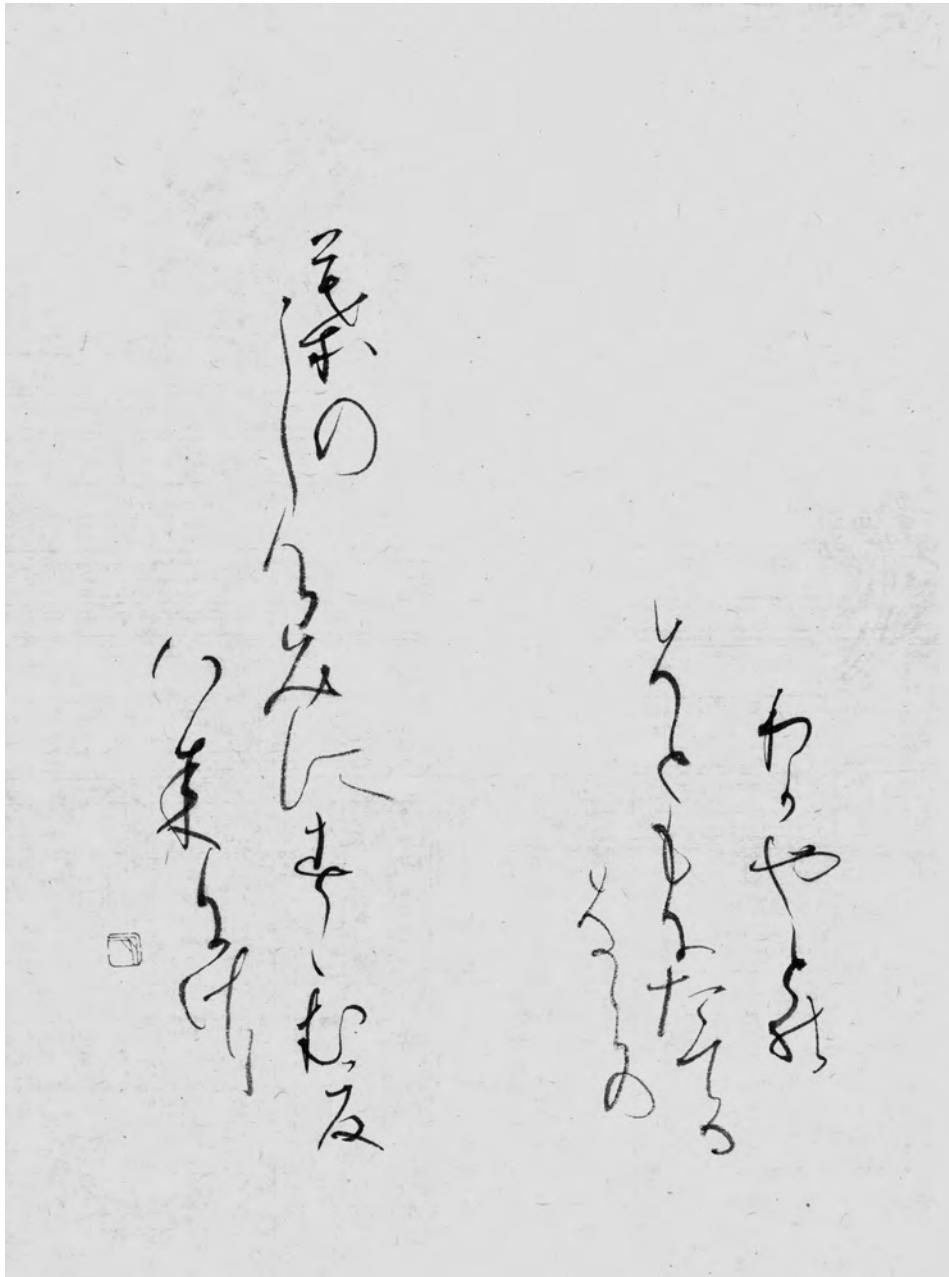
います。

散らし書きのとき、行数が増えると行書きの4行に書いたときと比べて行の高さ、長さや、行間などが変わってきます。

今回の作品の含墨は最初と5行目の「春」で行いました。渴筆部分「葉のし介み」では筆先の捻転により墨をしぼり出しています。筆に含む墨が少なくなったとき、筆の同じ面だけで書き進むと芯のある強く、美しい渴筆になりません。右下の短い行の集団、潤筆部分では手前に迫って見えるようになります。左上の渴筆の長い行は遠く離んで見えると思います。墨量の変化や、行間、余白などにより、風景を感じます。奥行きをともない立体的な作品になります。

よみ方 わが(可)宿(やど)の(能)そ(曾)ともに(尔)立(た)てる橋(奈ら)の葉の  
茂(し介)みにすす(春)む夏は(八)来に(尔)けり

創作

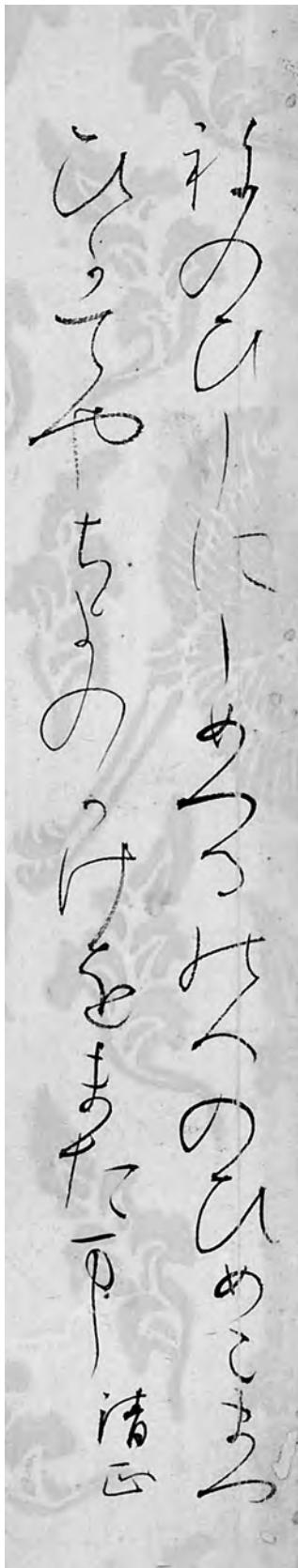


かな規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

◎四月号より課題を「粘葉本和漢朗詠集」に変更いたしました。

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集  
(掲載写真拡大111%)



### 習い方解説 (一)

松村 くに子

たまくしげ二上山のくもまより  
出づればあくる夏の夜の月  
(金葉集・源 親房)

基本的な2行書きです。変化を  
出すため、特に墨色には気をつけ  
ましょう。

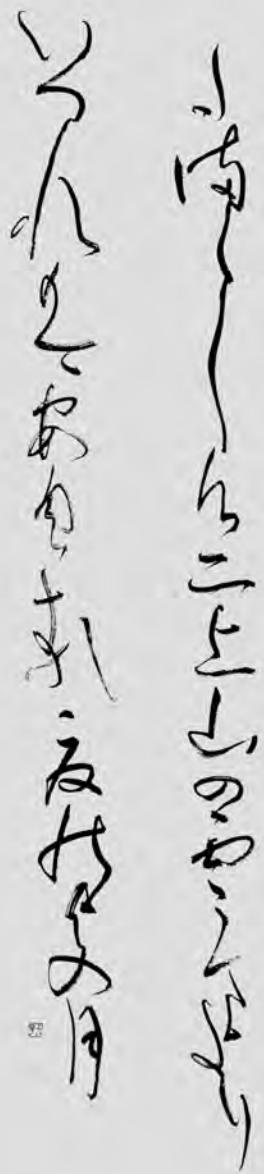
1行目と2行目の隣り同士が、  
同色にならないようにします。

墨量が少なくなつて来ると、線  
がやせがちになります。筆は、紙  
にひっかけるように、ゆっくり粘  
り強く動かします。変化に富んだ  
渴筆が生れると思います。

創作

かな条幅規定【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

松村 くに子選書



よみ方 た(多)ま(満)く(久)しげ(介)一上山のくも(雲)ま(万)より  
出(い)づれば(盤)あ(安)く(見)る(類)夏の(能)夜(与)の月

\*タテ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【八月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

辻元大雲選書

辻元大雲選書

習い方解説 (四)

辻元大雲



雲雨夢殘銅雀冷  
(雲雨夢残して銅雀冷ややかに、  
綺羅香散玉魚愁  
(鱗慶)  
(綺羅香散じて玉魚愁う)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下 【八月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

牧 泰濤選書

習い方解説 (四)

牧 泰濤

「観るにも聞くにも、言うこと行動全てに法則がある。酒杯皿鉢や机上に至るまで守道の銘文が記されている。」言動方正、座右箴銘の中で学書したいのです。

今日は行草体で書きました。墨継ぎは視、皆、席です。動、盤几、箴の含墨前の文字の筆路をしっかりと覚えて、滞滞なく一気に書くことです。

視聽言動皆有法  
(視聴言動皆有法有り、  
杯盤几席盡く箴を書す。)  
(唐伯虎)

書体=自由

今回も草書を交え、大小の変化でリズミカルに表現してみました。

用具の内、紙の選択はどうでしょ

うか。現在中国画仙紙は高騰して

なかなか大変です。展覧会作品な

どは上質なものを使いたいと思

ますが、普段の練習、競書作品な

どは安いやや質の劣るものを使わ

れことが多いと思います。無駄

な使い方は出来ません。大切に、

でも心ゆくまで練習を。

\*タテ形式に限る

習い方解説 (四)

川島舟錦

世界中がひとつのに  
なって全ての人々が  
仲良く助けあい  
微笑みながら平和に  
暮らしてゆく姿を  
舟錦書

「平和とは…。少なくとも芸術活動は、  
平和であることが基本。それぞれの感性や  
想像力、生きざまや魂を刻む営みだから。  
「民主主義の運営には、知性が必要。歴  
史を学び、憲法を理解したうえで成り立つ  
ものだから。」

というようなことが書かれていたものを  
読んだことがあります。世界のトップにい  
る人物でさえ、短絡的な言葉を発するよう  
に感じることがあります。

時代の最先端を走り抜けた若き時代のジョ  
ンレノンの歌詞『イマジン』に今、改めて  
感じ入ってしまいます。

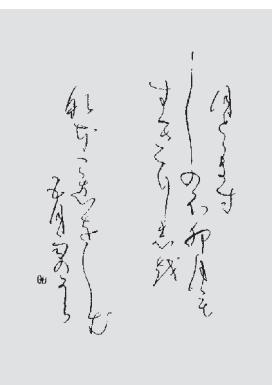
※落款(自分の名前)を必ず入れる。

用紙=はがきの大きさ(14.8×10cm)、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

ホープ作品  
各部総評 No. 673

かな部 師範 真下美佐代  
伸びやかな美しい線、心地よいリズム、悠々とした運筆で「かな」の世界へといざなう様な佳品。  
◎かな部總評 手本をよく学習されていてます。過剰な墨量にならないように。佳作でも誤字があると失敗です。要確認。（明子評）



かな条幅部 準師 渡田 阳一  
穂やかな人柄が窺え、柔軟な趣に惹かれる。字粒が揃いすぎた感もあるが、この特性を大切に！  
◎かな条幅部總評 細太・大小等、何でも過剰は美しくありません。左右・上下の空間も手本から読み取る事が必要です。（洋子評）



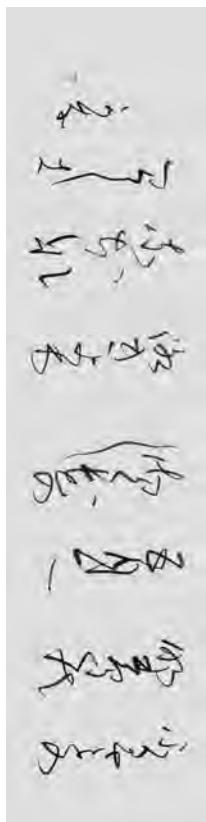
漢字条幅部 師範 笹木 蒼風  
草書木簡の趣を盛った単体の行草作品。表現を控え字粒を小さくして余白を生かす。類型のない作。



◎漢字条幅部總評 秀級以下ともども誤字が多い。必ず字典で確かめたい。上級「来」と「成」の草書の字体確認を。（翠風評）



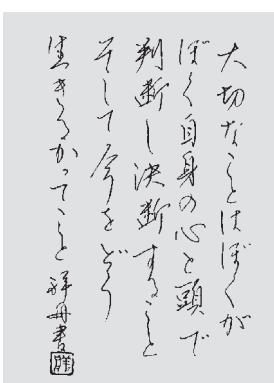
前衛書部 特選 廣瀬 幸枝  
作者が内面から放す感性が、構成・線質・飛沫などと融合し独自性のある表現となつた。  
◎前衛書部總評 独自性の表現と工夫に努力する作の反面、もう一步の作も見受けられた。（蓮紅評）



現代詩文書部 特選 西山 葵龍  
大胆な構成と線質のすばらしさに感動。冬山の厳しさとやさしさの両方が伝わってくる。  
◎現代詩文書部總評 淡墨作品が少なかつたのが残念。毎月趣向を変えて創意工夫を。（梓江評）



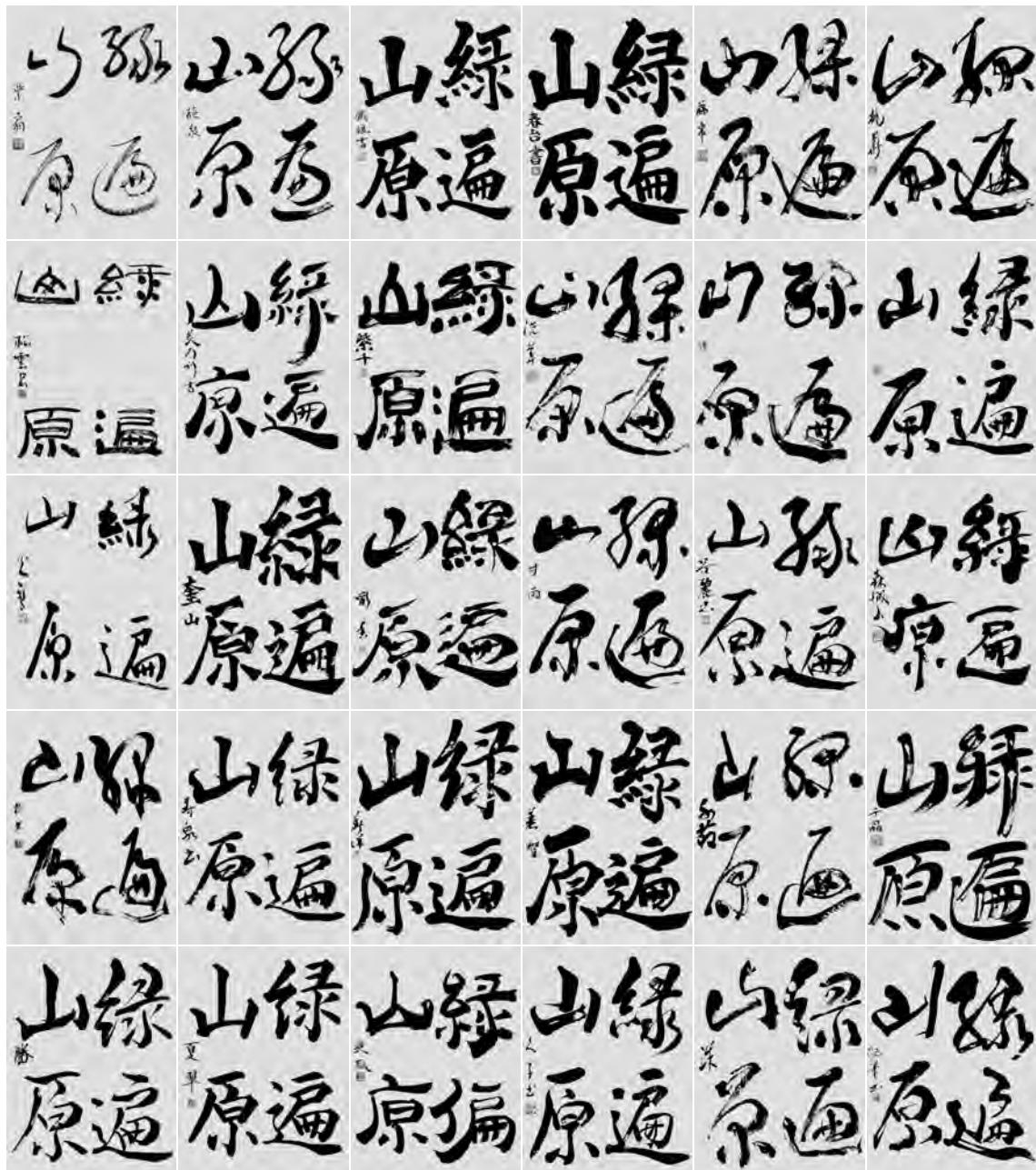
漢字部 師範 小山内谷玲  
しつとりと安定した雰囲気の作。おだやかな運筆のリズムが落ち着きを感じさせる。更なる飛躍を。  
◎漢字部總評 上下級共4文字表書風の違う表現など用具を変えてみたりと研究を是非。（大雲評）



◎ペン字部總評 丁寧に書かれた秀作が多かったが、名前の書き方注意のこと。清書時の下書きの線を消し忘れないよう。（仙草評）

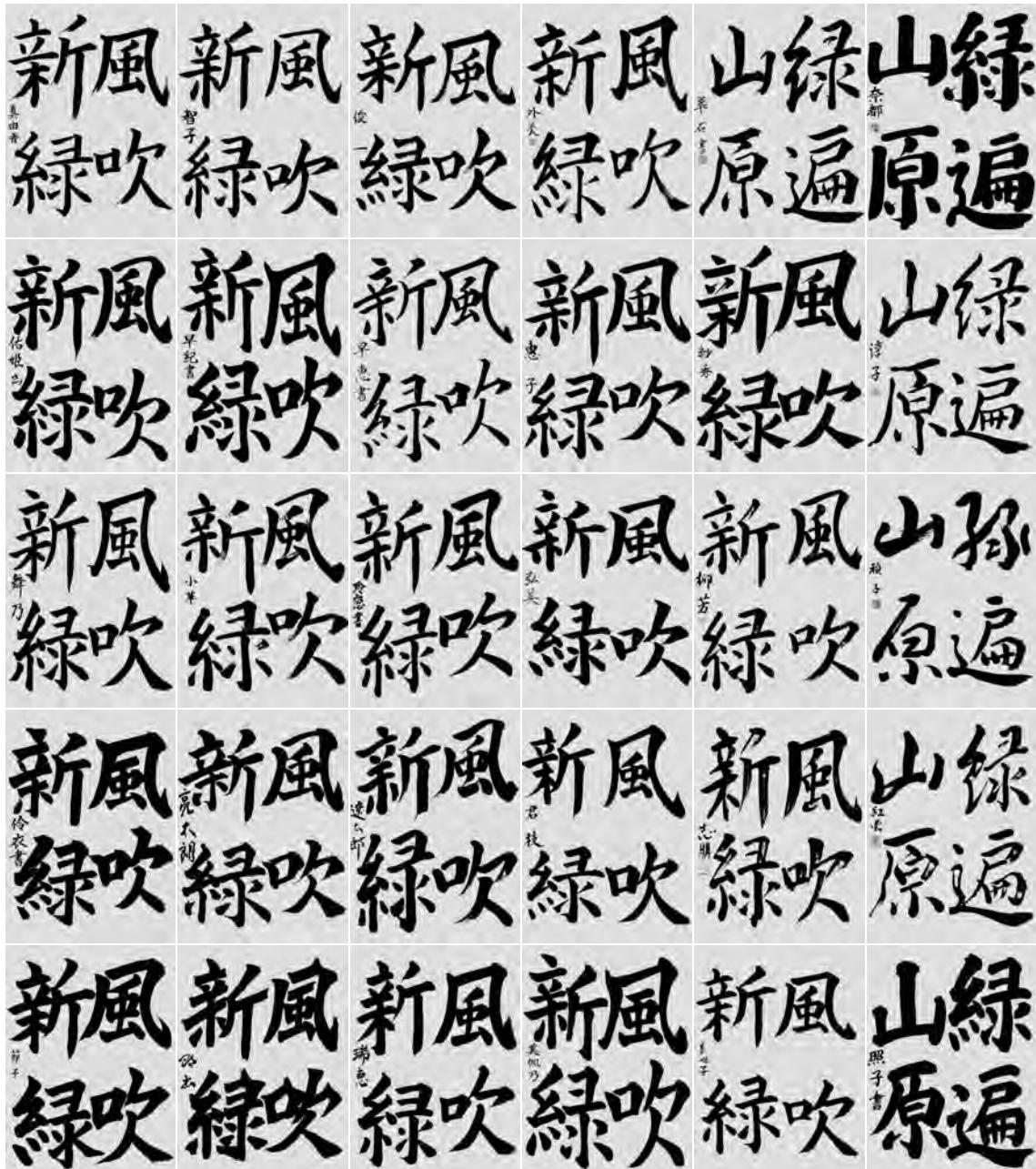


当選漢字



三	三	三	四	四	四	五	五	五	五	準	準	準	準	師	師	師	師	師	師	師	師	師	選評
勝	萩	光	松	紫	夏	寿	千	爽	華	彩	紫	鐵	雄	久	甘	雨	洗	草	花	藤	美	桃	大雲
美琴	雲	扇	泉	泉	翠	泉	千	風	洋	香	千	雄	子	珠	江	節	谷	帛	紹	森	千	紀	青蓋
動き	余	白	現	代	温	柔	柔	切	れ	味	が	加	わ	た	温	潤	な	線	質	の	リズ	ム	鄭街
大き	や	美	し	や	や	く	で	や	く	ん	ん	わ	た	く	や	く	う	う	う	う	う	う	葉扇
く	か	や	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	大雲

当選漢字



10 9 8 7 7

6 6 5 5 4

4 3 3 2 2

1 1 特特優

優秀秀初

初初二二二

節伶佑舞真由香  
子衣乃姫子

亮太郎智早紀小華

瑞遼玲窓惠一

美帆弘恵子

志朋柳芳

照紅頼雲奈都子  
子子子

たっぷり、暢やかな作  
法の線、結体も良い  
欧法温かみある表現  
雕像学んで力強い楷

筆先生きて軽やか  
虞法温かみある表現  
雕像記風の力強い作  
細線美しく伸びやか  
すつきり、暢やか

筆端活きて流れ良し  
濃墨で厚みある表現  
構成良く落款みごと

運筆安定し潤いある  
筆端利いて行き届く  
渴筆生きた珍しい楷  
シャープに雕像記風

すっきりと清澄な線  
懷広く温雅さ感じる  
整正で安定した作品  
強韌な線で堂々の楷

切れ味よく明爽な作  
筆力充実、線質も強い  
着実なりズムで温和  
軽快で伸びある楷  
丁寧な運筆、落ち着く

当 煙 か な



9 8 7 6 5 3 2 1 特優秀秀

佳奈雪き 美和和綾 春沙英睦  
代緒 子子心み 希美江子 菜莉峯心

素晴らしい臨落款一考  
伸びやか佳雅印過大  
小振りだが正確な臨  
運腕大きく伸びやか  
正確で流麗堂々の作  
よく練れた線で正確  
忠実に古筆を再現  
切れ味よく美しい作  
筆が立ち繊細で正確  
丁寧に落ち着いた作  
伸びやかに淡々と秀  
格調高く線に張り有

初初二二三

貴敏真裕翠  
子子理美宏

丁寧で品の良い情感  
運腕大きく墨色美  
律動感があり明快作  
味わいのある渴筆美  
清澄で穏やかな運筆

三四四五五

桃か杏幹綺  
子え邑生水

散らしの構成立体感  
自然体で温和な作  
懐広く闊達に伸やか  
潤渴自然に流れ温雅  
構成筆力潤渴の美

五準準準師

佳成大伯隆  
代子美郎泉華

熟練の表現力の魅力  
端正な字形、爽やか  
筆圧の変化冴えた作  
しなやかなリズム佳  
気負わず素直な筆致

師 師 師 師 師

由美子  
佳代子  
雪美裕彩

着実な運筆で安定作  
清々しい上品な佳作  
軽妙な大きな動き美  
明るい運筆のリズム  
温かい線、構成に趣

選評

當選漢字條幅

9 8 6	5 4 3	2 1 特	初	秀	二	四	五	準	師	師	師
晶子	理佐	萩江	潤来	沙莉	鶯	嵩	純	水 節	輝光	幸雲	幸雲
泰香	由美子	玲華	恭昌	莉	風	龍	適 風	百 雲	美 風	美 風	美 風
重男	一慣した流れ美しい	寿昌	潤	美智恵	來	潤	みのり	聰 春	彩	清 風	粗い線の混在が魅力

当選かな条幅



9 7

恵 惠  
風 子

構成大胆で新鮮味有  
運筆穏やかで清々し

3 優

和 桂  
美 華

筆勢豊か「し」一考  
墨の潤渴よく軽快

秀 初

純 篦  
子 山

温かで太細ある作  
構成よく行間光る

二 三

登 千鶴  
江 子

爽やかな運筆快い作  
切れのある線質魅力

四 五

裕 由  
子 美  
子

墨色良く充実した作  
リズム感有る線条美

準 師

敬 大  
子 郎

筆法軽快で緩急有り  
字形良く景色美しい

選評 洋子 峰子  
東舟 孝子

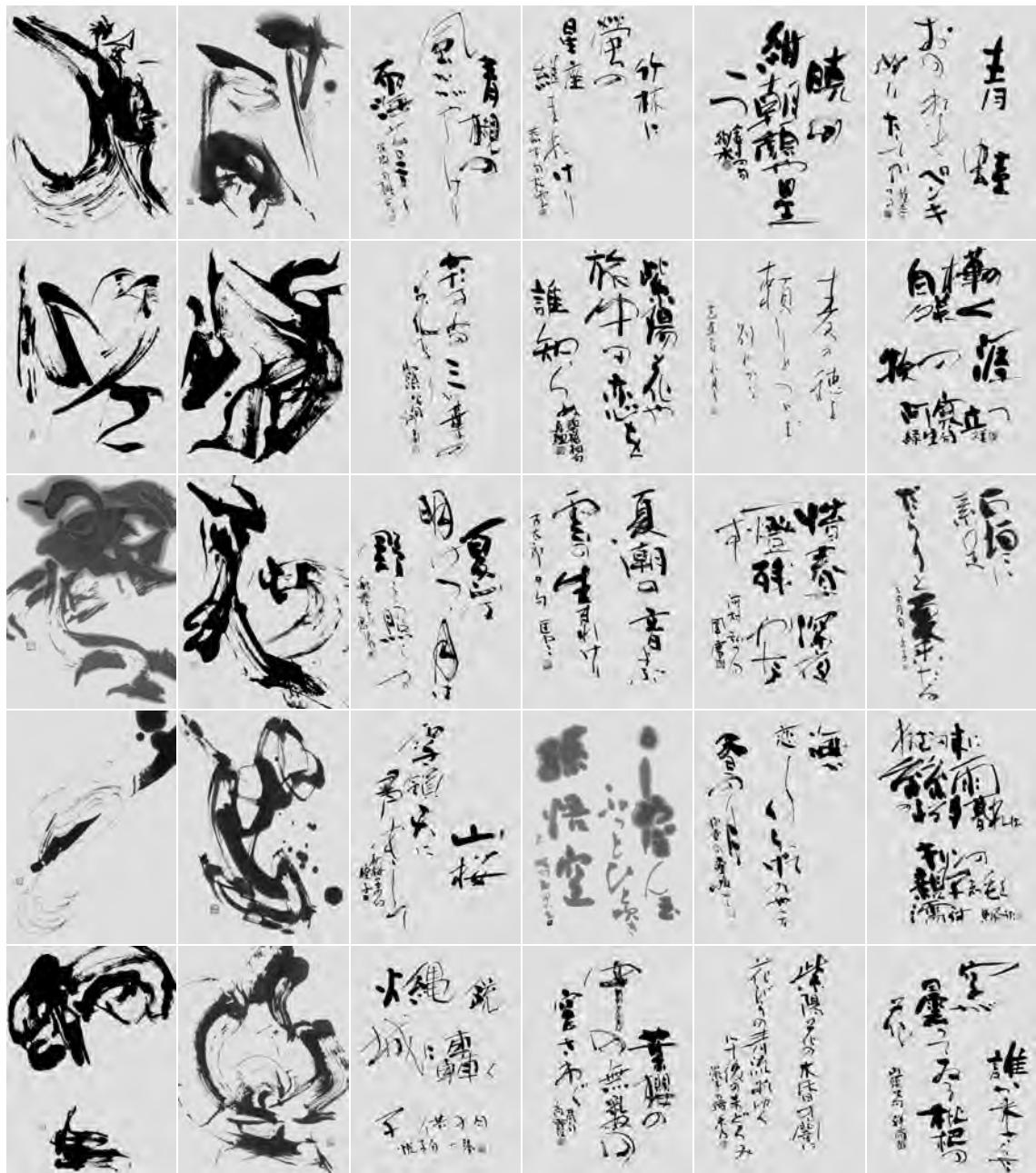
## 当選ペン字

選評  
峰子仙草  
孝予雪枝  
和

9	8	7	6	5	3	2	1	初 秀 優 特 光 芳 惠 月	草 玉 楊 風 昭 華 麻 衣 子	均整良く、軟らかな楷書体、白眉 かなの長短を使い表現豊かに纏る 運筆・字間にゆとりとリズムあり 氣字大で布置も見事、完成度高い	富士子 裕美 彩真妃	字間整い楷、行の均衡大変美しい 大らかに運筆し細部迄安定した作 氣脈一貫の楷書、眞面目さに脱帽 連綿自然に書き込み気品備わる		
稔	彰	泰	玲	柳	秋	惠	霞	柳太郎	漢字	一点一画に心がこもり余白美あり 漢字とかなの流れよく一貫性あり	9	8	7	6
子	真	香	窓	芳	芳	子	霞	懐広く美しい字形、安定の作 力強い筆致、氣力あふれる	丁寧	丁寧な運筆とバランスの良い佳作	5	3	2	1
泰	香	点画	玲	柳	秋	惠	月	温かい線質、ゆったりと大らか	細線	細線でしなやかな線質、流麗作	9	8	7	6
芳	子	丁寧	窓	芳	芳	子	代	丁寧な運筆、素直で優しい作品	運筆	運筆・字間にゆとりとリズムあり	5	3	2	1

## 前衛書部(特選)

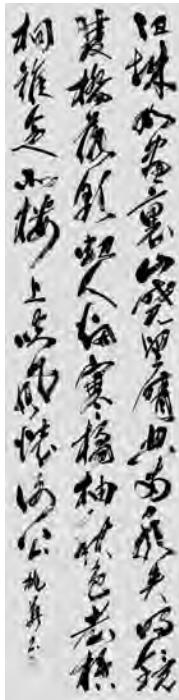
## 現代詩文書部(特選)



今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

漢字 (八街)  
熊谷桃華



174×45cm

「秋登宣城謝朓北樓」

熊谷桃華書

◆半切½大にほぼ原寸での精緻な臨書。細部までよく観察し、筆法も正確さを見せており。落款も妙。

(紅瑠評)

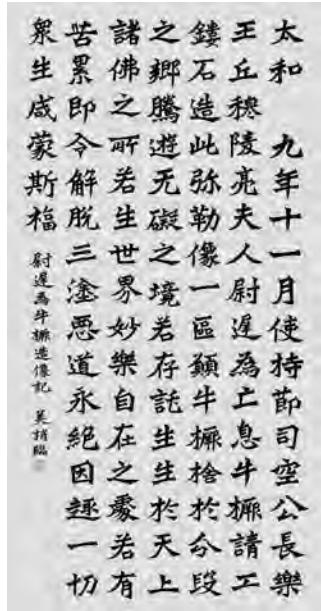
◆切れ味鋭い方筆の筆使い、起筆・収筆の明確さなど、原碑の特徴を的確に捉えた見事な細字全臨作品。

(大雲評)

◆半切½にほぼ原寸の臨書。運筆の切れ味が魅力。余白のとり方も程良く、懐の広い端正な作品です。

(東舟評)

「牛欄造像記」



68×35cm

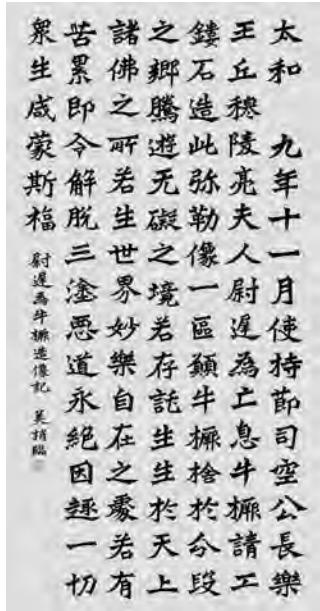
臨書 (大雲) 鷺山美梢

鷺山美梢臨

太和九年十一月使持節司空公長樂王丘穆陵亮夫人尉遲為亡息牛欄請工鑄石造此弥勒像一區願牛欄捨於今段之鄉騰遊无礙之境若存託生生於天上諸佛之所若生世界妙樂自在之最若有苦累即令解脱三塗惡道永絕因緣一切衆生咸蒙斯福

尉遲為牛欄造像記 美梢臨

「牛欄造像記」



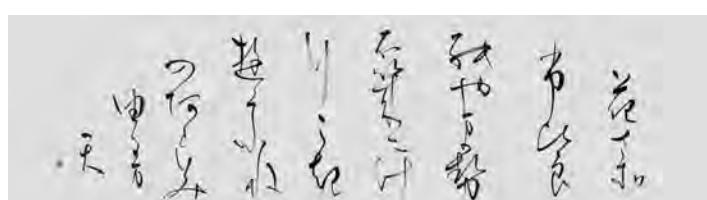
68×35cm

鷺山美梢臨

太和九年十一月使持節司空公長樂王丘穆陵亮夫人尉遲為亡息牛欄請工鑄石造此弥勒像一區願牛欄捨於今段之鄉騰遊无礙之境若存託生生於天上諸佛之所若生世界妙樂自在之最若有苦累即令解脱三塗惡道永絕因緣一切衆生咸蒙斯福

尉遲為牛欄造像記 美梢臨

かなか (A.I) 藤村昌子



46×163.5cm

藤村昌子書

◆柔らかな墨色で温かい。感受性高くておやか。作品の強調を計る山場を作つてみるのも良いと思う。

(東舟評)

◆シャープな線質が紙面に軽妙なリズムを醸し出している。爽やかで明るいが更に深みと強さがほしい。

(大雲評)

(和楓評)

「花さそふ」

藤村昌子書

46×163.5cm

◆歯切れよい運筆のリズムが、3行構成を爽快に見せている。やや右上りの字形が明るい雰囲気を醸す。

(大雲評)

◆穏やしさの中に鋭い線質を加えて、自然な流れのある心あたたまる書、どこかにポイントがほしいか。

(和楓評)

(紅瑠評)

◆歯切れよい運筆のリズムが、3行構成を爽快に見せている。やや右上りの字形が明るい雰囲気を醸す。

(大雲評)

◆濃墨による潤渴の線條が冴え、心地よいリズム・流れを生み出している。やや字粒が揃いすぎた感あり。

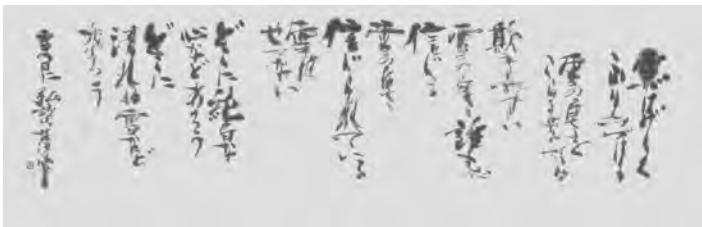
(紅瑠評)

◆筆端の切れがさわやか。リズム良く一気にまとめていて軽妙さがあり練度の高い作。字形方に一考を。(和楓評)

◆線に減り張りを利かせ、余白が生きている。リズミカルで快く、墨の濃淡を強調する更に良い。

(東舟評)

現代詩文書 (うるいど) 篠原楊流



篠原楊流書

55.5×172cm

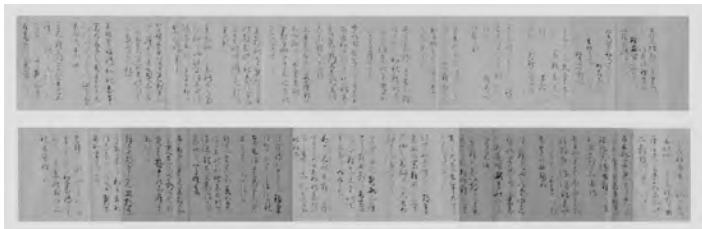
◆紙面全体霞む様な淡墨で淡々と書き進み、温みある筆意を感じる。最後の余白を広くとりたい。

◆淡墨ながら筆線に骨力と潤滑を生んで良い。落款の入れ方を再考され  
ては？

◆淡墨ながら筆線に情力と潤滑を加味した構成のまとめ方が自然で良い。落款の入れ方を再考され  
ては?

一雪の日に

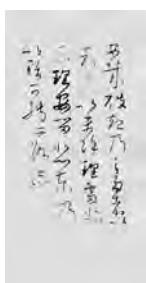
臨書 (高崎) 根津飛龍 「秋萩帖」



根津飛龍臨

60×180cm

### 部分拡大



◆秋萩帖のもつ大らかさを十二分に發揮し、特長を正確に捉えた臨書作。料紙の研究とともに敬服です。

◆整齊な文字、連続少なく気脈の通る秋萩帖の特徴をよく捉えていて、最後まで集中した臨書態度に感服。（東舟評）

◆回転による飛沫が効果的。上部から下部への潤滑を活かしたリズムが魅力。現代的で爽快な作となつた。(紅瑠評)

◆濃墨の沈着な部分と飛沫と  
渴筆の部分がすばらしく、爽  
やかな作品。余白と躍動感に  
魅力を感じる。  
(和楓評)

創作の部	漢字	かな	前衛	篆刻	現代
（特選候補者）	漢字	かな	漢字	漢字	漢字
（創作の部）	漢字	かな	漢字	漢字	漢字
（特選候補者）	漢字	かな	漢字	漢字	漢字
88点	総出品点数	点	点	点	点

総出品点数  
88点

漢字研究部  
(牛欄造像記)

選評 稲垣小燕

今月のホープ作品



玉潤良章



サチ子 き芳生 泉江

遊惠紅翠蘭紅山仙苑陽花雨

典藤史み岳礼よ子谷音こ舟子

雅彩美美紅友香里悠華和梢雲里

漢字研究部 特選 玉潤 良章  
直線的な横画、縦線の強さ、角張った転折  
という特徴をよく捉え表現されています。  
気迫と筆力の強さが相まって逞しさを感じ  
とれます。墨の濃度にもよく留意され非常に  
美しい線で格調高い作です。

◎漢字研究部総評

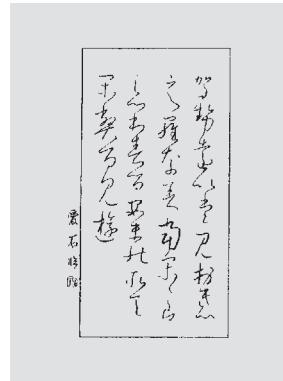
臨書するにあたっては、その古典の歴史的  
背景、内容をも学習して取り組むことが大事

です。用筆・字形のとり方等をよく観察して  
特徴をつかんで、書く姿勢を身につけてください。  
出品作の中には大雑把な作が多く見  
かけられ残念に思いました。書を学ぶ者にとって  
臨書は必要不可欠です。可能な限り古典に  
忠実に書くことです。基本をしっかりと修得  
することを心がけてください。

か な 研 究 部  
(秋萩帖)

選評 庄 司 紅 郷

今月のホープ作品



松 丸 爰 石

かな研究部 特選 松丸 愛石  
草仮名の手本として、日本人に大切にされてきた「秋萩帖」です。書風の特徴をよく捉え、雅さと品位を兼ねた和様の美しさ・潤滑が表現されました。

◎かな研究部總評

草書体でありながら「万葉がなの草体」ですから「かな」として書体を一貫して書いて欲しいです。自分流に変えずに、手本に忠実にして下さい。

かな研究部成績表

幹佳咏

紅右陽

惠翠良  
子陽泉

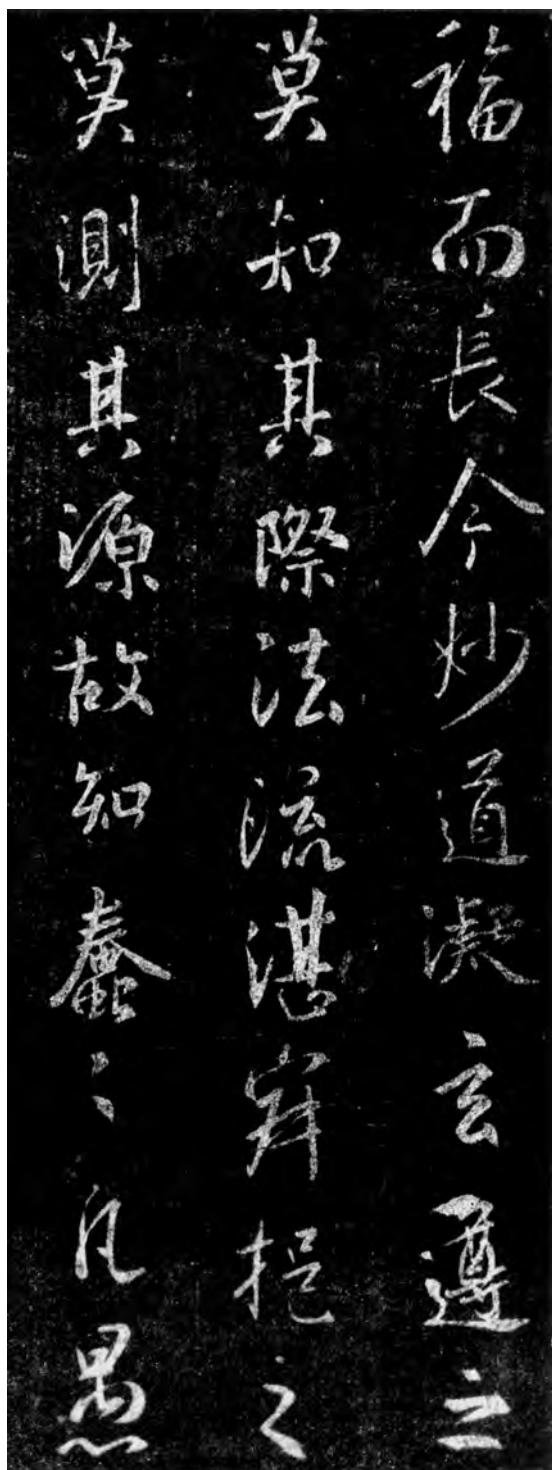
嘉洋  
ゲ  
江子子

か な 研 究 部 成 績 表	評 か な 研 究 部 特 選 松 丸 愛 石
から「万葉がなの草体」ですから 風の特徴をよく捉え、雅さと品 味一貫して書いて欲しいです。 に、手本に忠実にして下さい。 大きさ・潤滑が表現されました。	して、日本人に大切にされてきた を一貫して書いて欲しいです。 に、手本に忠実にして下さい。
玉 松 秀 作 今伊市飯青 村東藤川泉木 貴江悦子洋松 泉子子月郷	清玉京大明大蒼蕙調洞大宗清上有上こ颯玉大白うこ書石 月松橋雲漢雲陽書魯書雲苑月泉秋泉こ葵松雲露るだ游習 真田近磯吉黒込坂武安驚茂小中石中加後橋日松飯五庄松 下中藤貝田柳山本藤藤山木林村川尾藤藤本高村高十司丸 佐耶松鶴竹美里蕙楊美絢裏ゲ洋蕙翠良紅右陽幹佳味愛 代衣春耀子葉艸美睦風梢水江子子子陽泉麗真子生栄佳岬石
白珠 佳 作 相内 沙莉 作 (60) 白珠 佳 作 相内 沙莉 作 (60)	竹東清声長生正前蘭玉青舜青天高東旭竜香明正春竹清樹大正こ高澄高 美伯月香月大華橋鼎松蓮水峰章真実老泉書漢華汀美月原雲華だ眞春眞 横山大宮増牧東春林長沼中中中鶴高高須嶋柴佐櫻境近草木加大梅宇岩 山本和内田野田山谷田村西里里淵山橋質田々田野藤刈原巖石山田川 蘭真紀成佳清敏勝雅千奎舜玉亮星亞靖真雅一寸洋和智和淑眞輝春星久春郁 舟紀江子子次子美子峰心水泉子子希子董泉起子子舟子子華子菜桂子華

芳京華五高白華千た詢水紅洞耕小千一秀有童詢正千昌芳翠高た千梓文裏千竹 正書も附A誠澄陽華岩椿千五  
月阪瑠陵 入 蘭橋仙葉崎子仙葉か扇海風書雲映葉宮畠秋泉扇華葉苑蘭吟崎か葉江筆張葉扇 華游く中I和春陽祥沿翠葉葉く  
新天藍會 連 渡吉山森松牧前平浜野根西中土豊戸鶴筑武泉鈴神紫坂齊近小小河倉熊北菊河金加小岡大生鷦字岩板石安安秋青  
井羽澤木 多 達田本田浦野川山野村岸田村井鳴村田井山水木保雲巻藤峰林野本谷村地岡湖瀬野部石方澤井垣崎藤山木  
惠心白勇 信 佑美睡玉優瑛彩永陽み雍寛弘 博雅宏花龍利佳煌麗江閑加晃惠翠紫惠泰星寿日より久枝美琴楠陽青正代叙久藤  
子珠訓 溪子楓子江子仙華董詢子子枝勝舟裕子源宝子子月苑彩窓子代子径蘭舟扇呼夏こ子子舟麗光鳳子子孝枝連  
A 弘八声桜た静声山高澄英や菊蒼う奥大墨た白詢英生立白広梓蘭誘樹雲安苑大明伏桜白椿た正澄八八誠 正千書文A千生  
I 舟雲香草か紅香武崎春峰ま月原る田阪花か珠扇峰大精扇島江鼎韻原溪波書阪漢草疏翠か華春街戸和 華葉游月I葉大  
清済七三澤猿佐咲佐酒齋齊斎斎斎斎小小小河工吉北菊神川川加葛香小小小小大大大梅鶴植井市石石石石石池飯新  
水谷條株田渡藤野々井藤藤藤田質林林口野藤藤瀬又地田本元崎納 川野野野澤熊森塚島津澤田上川崎毛川井田井  
由由木か 知 稿美裕裕範纂靜德町知翠早つ 舞裕純萩智白史香彩白典南茱優順惠翠久加萩和代佐由昌代李美芝紫甘寿津晴嘻桂澄信光翠  
子子美子子左子子子季苗功夢美風江子子篇辛蘭兩岐雅子江仙子子善美都善都子子子子名桂麗皇雲乃子同翠華水子彩華

## 〔特別昇級試験臨書課題〕

※臨書課題は全て、写真掲載部分の中から規定の文字数を臨書する。掲載以外は違反となります。



集字聖教序（行書）

## 漢字部

第二種 半紙に写真掲載の中から12文字を臨書



行於邦黨若夫秉心塞淵砥礪名教。

福而長今妙道凝玄。遵之莫知其際。法流湛寂。挹之莫測其源。故知蠢蠢凡愚。

騰漢庭而皎夢。照東域而流慈。昔者分形而分蹟之時。言未馳而成化。當常現常之世。  
當常現常之世。而形未馳也。時言未馳也。時言未馳也。時言未馳也。時言未馳也。

騰漢庭而皎夢。照東域而流慈。昔者分形而分蹟之時。言未馳而成化。當常現常之世。

けとてあせらあせら六章於七絃

時當日暮猶復推  
山火以生陵

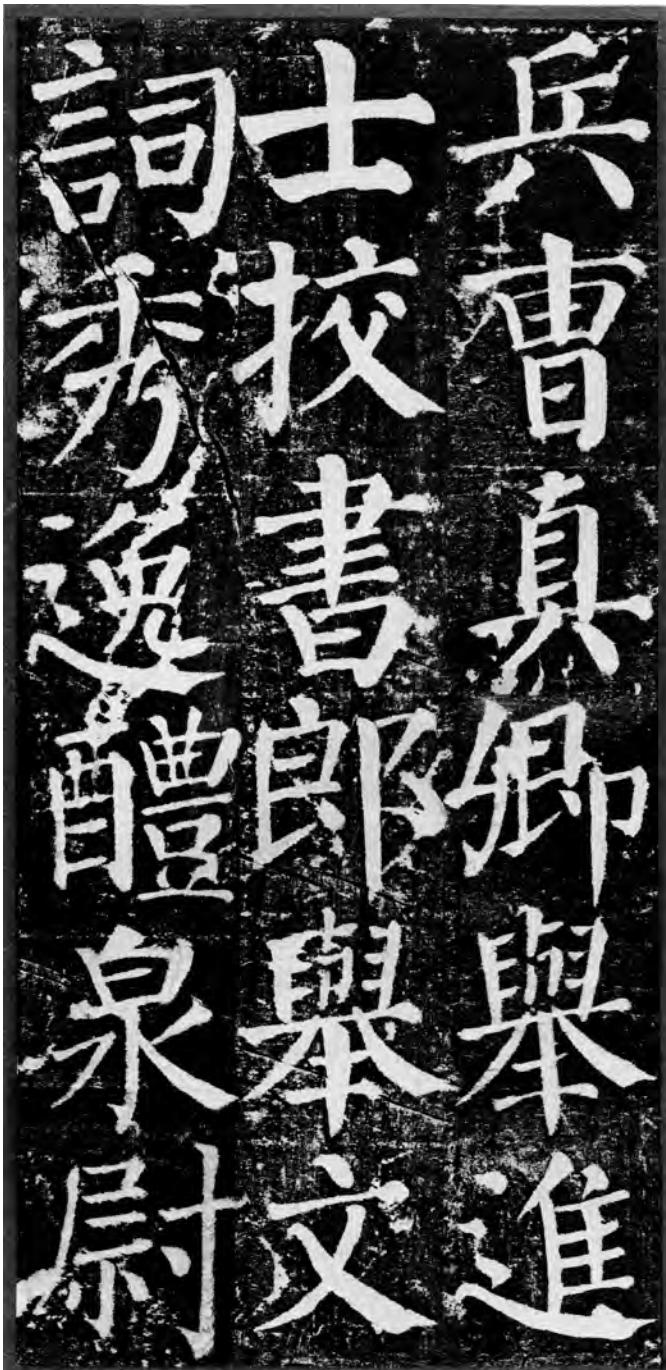
計與足下別。廿六年於今。雖時書問。不解澗懷。省足下先後

顏勤札碑

漢字条幅部

第二種

半切に写真掲載の中から14文字を臨書



兵曹。真卿舉進士。校書郎。舉文詞秀逸。醴泉尉。

基泉法師

まつりやみゆきよ  
まつりやまとひとはいふなり

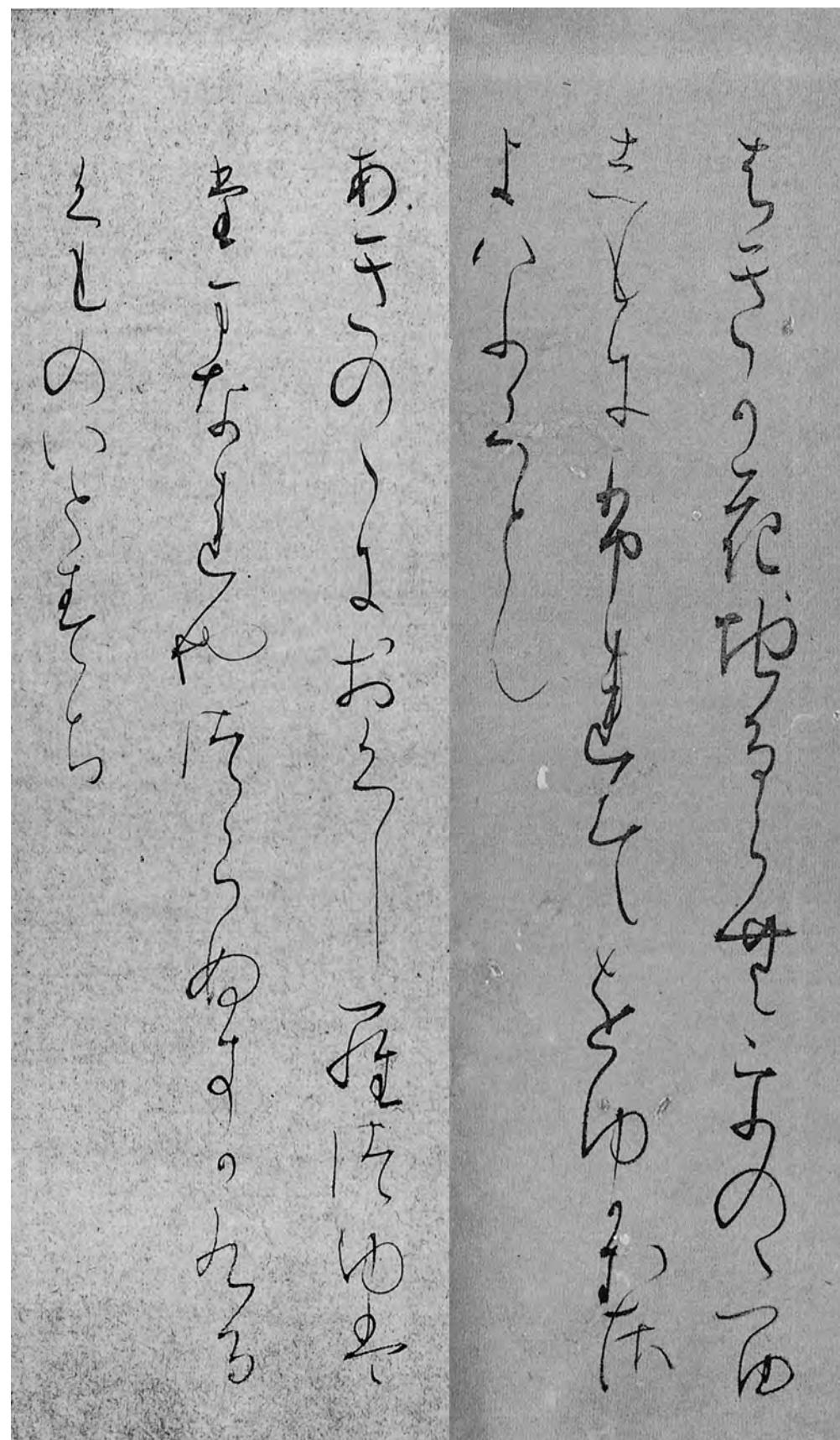
まつりやまとひとはいふなり

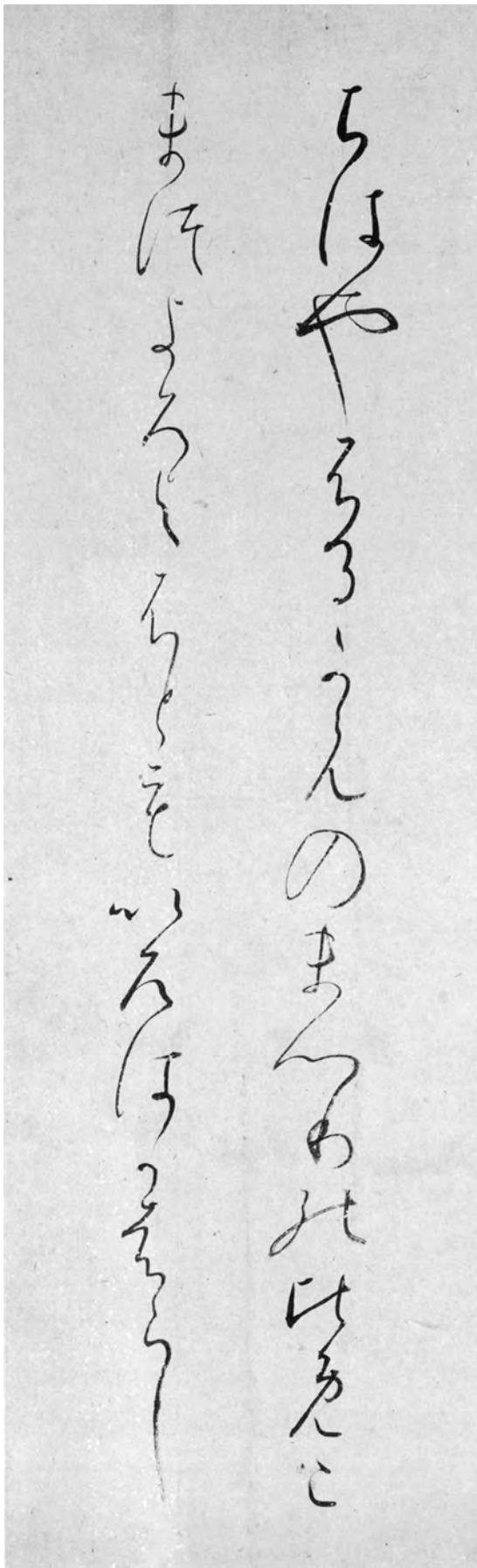
まつりやまとひとはいふなり

あらすりやあらわい  
あらげしむどひの木、さわぎ

基泉法師 / 王可本者  
与須 / わかいほはみやこのたつみしかぞすむ / よをうちやまとひとはいふなり  
よみびとしらず / あれにけりあはれいくよのやどなれや / すみけむひとのおとづれもせぬ

※図版は原寸





ちはやぶるかものまつりのひめこ／まつよろ(脱)よふともいろはかはうじ  
可 无 川 利 能 比 免  
与 不 毛 以 吕 可  
者

ご注意!!

名前のかき方

- ◎どの部も落款を入れる。
- ・創作は○○書（かな部・かな条幅部は印のみ可）と書く。
- ・臨書は○○臨と書く。

※図版は95%縮小